

酒石酸カリウム	酒石酸カリウムナトリウム	酒石酸鉄カリウム	蒸餾水	蒸気製甘汞劇	重炭酸カリウム	重炭酸ナトリウム	重炭酸ナトリウム	重炭酸ナトリウム	重炭酸ナトリウム	重質煨製マグネシア	重質煨製マグネシア	弱發泡膏	麝香
四〇・一八〇(下) 〇・五二〇(尿)	七・五三〇(下) 〇・五二〇(尿)	〇・三一〇	用量不定	甘汞よりも効二倍強し	〇・五一〇	〇・五一〇	〇・五一〇	一・二錠	硫酸キニーネに同じ	煨製マグネシウムに同じ	四〇・一八〇	用量不定	〇・一〇・五
緩下・利尿	同上	強壯	製劑用	甘汞に同じ	飽和薬	消化不長・胃加太兒・制酸・解凝等	同上	同上	同上	下劑	下劑	刺戟誘導	興奮・芳香

酒石酸	酒石酸セリウム	止血綿	薔薇蜜	薔薇水	薔薇油	生薑舍利別	生薑丁幾	生薑蓋	シナ花	燒石膏	松脂硬膏
〇・二一〇・五	適宜	〇・三	精製蜂蜜に代用	同上	用量不定	五〇・一〇〇	〇・五一〇	〇・二五・一・五	一〇・一五〇・一五〇	煨性硫酸カルシウムを見よ	用量不定
清涼	興奮・毒・製劑用	鎮吐・麻酔	止血	同上	調香	同上	同上	健胃・芳香・調味	蠅・蟻・蟻	刺戟收斂	刺戟收斂

次	次	次	次	次	次	次	次	純	神	人
炭酸鐵	亞磷酸カルチウム	サリチール酸蒼鉛	沒食子酸蒼鉛	硝酸蒼鉛	硝酸蒼鉛	炭酸蒼鉛	次 醋名酸鉛 醋液	純 アルコール	神 効石	人 工カルルス泉鹽
○・一〇・五	○・二五・一〇	○・三〇・五	○・二五・一〇・五	○・二一・一〇・一・五	一・一・二個	○・三〇・五・一・一〇	外用のみで一・二%水	用量不定	銅鑿を見よ	五・〇・一・一五・〇を水二〇〇・〇に溶解し用
強壯	變質	諸種の下痢	腸病・チブス等に	收斂・止瀉	同上	同上	腐蝕劑等	製劑及び試薬		下

(E)

ビ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	水	華	華	ヒ	ヒ	ビ
ラミド	ヨスエキス	ヨスエキス	マシ油	砒石解毒劑	無性没食子酸	氷 醋	華 澄茄エキ	華 澄茄	ヒドラチス流動エキ	ヒドラチス根	ラミド
ゲメチールアミドアンチピリンを見よ	○・三	○・一	一・〇・二・〇	一〇〇・〇・一・二〇〇・〇	外用の量不定	用量不定	○・五・一・〇・一・二・〇	一・〇・一・三・〇	十一・二十滴	多くは次の薬を用ふ	
	鎮痙	鎮痙	同	薬名の如し	主に染髮料	腐蝕	同	淋疾・アフトリヤ	同	女子生殖器の出血及他の出血	

精製 テレピン油	精製 樟腦	精製 酒石	精製 ゴア末	セルベンタリア根	セルベンタリア根	接骨木花	セネガ根	セネガ舍利別根	小兒 苦土大黃散 散	小豆 蔻	硝 酸劇
外用の量不定	外用の量不定	外用の量不定	クリサロピンに同じ	〇・五―一・五を浸劑	〇・五―一・五を浸劑	一〇・〇―二〇・〇を水二〇〇・〇を浸	〇・五―一・五	四〇―一六〇	〇・五―二・〇	〇・三―一〇・五	用量不定
刺戟性疥癬(内) 神經病等の外用	防腐・刺戟・鎮痛(外) 興奮・驅風			食思催進等	同上	發汗	祛痰	同上	小兒に用ふる 制酸・緩下	健胃・芳香	腐蝕

精製 タマリンド	精製 グツタベルカ	精製 ガ―綿	精製 ガ―ゼ	精製 流動蘇合香	精製 蜂蜜	精製 硫黄	〔セ〕		木 タ―ル軟膏	木 タ―ル	沒食子酸	ビクリン酸劇
タマリンドに同じ	グツタベルカに同じ	同上	同上	流動蘇合香を見よ	用量不定	外用は量不定	〔モ〕		用量不定	外用の量不定	〇・〇五―一・〇三(内) 外用は量不定	主に外用で大抵一%水
		同上	同上		同上	緩下痔疾(内) 皮癬			同上	慢性皮膚病・氣管支加 答兒・淋疾等	收斂・止血等	主に止血

石炭酸綿	石炭酸水	消毒用石炭酸水	石灰擦劑	石灰水	石松子	赤色降汞膏	赤色酸化汞軟膏	赤色酸化汞軟膏	赤降汞軟膏	石油ベントンチン
						毒				
用量不定	同	同	同	同	外用には 〇・〇一〇三 〇・〇六	赤降汞軟膏に同じ	赤降汞軟膏に同じ	赤降汞軟膏に同じ	赤降汞軟膏に同じ	〇・二一〇・五
外科綿帶料	消毒用	同上	包攝藥	内用 尿道衣料 外用 收斂乾燥	丸劑 尿道衣料	解凝				嘔吐・眩・因・毛・蟲

硝酸カリウム	硝酸ナトリウム	硝酸銀	硝酸銀加硝石	硝酸ストロキニーネ	焦臭樹脂油	焦性没食子酸	石榴皮	石鹼硬膏	石鹼精劑	石鹼
		劇	劇	毒	毒					劇
〇・三一〇	〇・五一〇・二〇	〇・〇三	外用には 〇・五一〇・一 〇・〇三	〇・〇〇五	〇・〇一五	ヒロガロールを見よ	三〇・〇一六〇・〇を煎劑として數回に分	用量不定	同	同
喘息の消痰	同上	外用腐蝕止血・收斂・消毒内用骨髄癆・下痢等	同	刺戟・神經藥及眼科	刺戟性塗擦として外用	條蟲	刺戟性軟膏とし外用	防腐・消毒	同	同

註解

▲藥局方——各國の政府は委員を命じて藥物に關する規則を編ましめ之を何國藥局方と云ふ。即ち日本には日本藥局方あり、獨逸には獨逸藥局方あるやうな道理である。▲普通藥劇藥毒藥——藥物を三種に分ち其の性質の穩かなるを普通藥と云ひ、其の性質の峻劇なるを劇藥と云ひ、それよりも尙一層峻劇なるを毒藥と云ふのである。▲收斂とは身體の或る部分に在る液體を制限又は止めるといふやうな事。▲伍用——混ぜて用ふるを云ふ。

▲一茶匙——約四瓦。▲一食匙——約十五瓦。▲極量——劇毒藥に限り或る分量より多く用ふる事ならぬ程度の量を云ふ。

家庭醫學 大尾

大正二年十月十三日印
大正二年十月十七日發行

印刷行

(家庭醫學補遺典付)

正價 金六拾五錢

不許漢譯

不許複製

著者 發行所 印刷者
關東大賣捌 關西大賣捌 印刷所

著者 糸左近
金刺源次
樁市太郎
東京堂書店
三宅書店
芳水舍
東京市京橋區本八丁堀四丁目五番地
東京市東區南本町四丁目

發行所

東京市神田區今川小路一丁目五番地(電話本局七六六番)

金刺芳流堂

振替貯金口座東京(八四二四)

60
別冊
283k

終

